

有効成分ジンプロピリダズを含有する申請農薬の 使用方法及び薬効・薬害試験結果概要

1. エフィコンSL（ジンプロピリダズ 10.8%液剤）

（1）使用方法

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジプロピリダズ を含む農薬の 総使用回数
りんご	アブラムシ類	1000~2000 倍	200~700 L/10 a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
なし	カイガラムシ類	1000 倍					
もも	アブラムシ類	1000~2000 倍					
	カイガラムシ類						
おうとう	オウトウショウジ ヨウバエ	1000 倍		収穫前日 まで			
ぶどう	チャノキイロアザ ミウマ		収穫 7 日前 まで				
キャベツ	アブラムシ類	250 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱 またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用 土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	定植当日	1 回	灌注	3 回以内 (但し、定植 時までの灌注 処理は 1 回以 内、散布は 2 回以内)
		1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
	アザミウマ類	1000 倍					
はくさい	アブラムシ類	250 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱 またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用 土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	定植当日	1 回	灌注	
		1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
ブロッコリー	アブラムシ類	250 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱 またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用 土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	定植当日	1 回	灌注	
		1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
	アザミウマ類	1000 倍					
レタス類	アブラムシ類	250 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱 またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用 土壌約 1.5~4 L) 当り 0.5 L	定植 3 日前 ~定植当日	1 回	灌注	
		1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
トマト ミニトマト	コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ポット 灌注	
	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
	コナジラミ類	1000 倍					
	アザミウマ類 トマトサビダニ						
なす	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ポット 灌注	
	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
	コナジラミ類 アザミウマ類	1000 倍					

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジプロピラズ を含む農薬の 総使用回数
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ポット 灌注	3 回以内 (但し、定植 時までの灌注 処理は 1 回以 内、散布は 2 回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1000~2000 倍 1000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
いちご	アブラムシ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ポット 灌注	
		1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
	アザミウマ類	1000 倍					
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ポット 灌注	
	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	1000~2000 倍 1000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
すいか	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ポット 灌注	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1000~2000 倍 1000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	500 倍	50 mL/株	定植当日	1 回	育苗 ポット 灌注	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1000~2000 倍 1000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
てんさい	アブラムシ類	100 倍	ペーパーポット 1 冊 当り 1 L(3 L/m ²)	定植当日	1 回	灌注	
		2000~3000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
ばれいしょ		100 倍	20 L/10 a	植付時	1 回	植溝内 土壌 散布	3 回以内 (但し、植付 時の植溝内土 壌散布は 1 回 以内、散布は 2 回以内)
		2000~3000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	
		だいず		2000~4000 倍			収穫前日 まで
茶		チャノミドリヒメ ヨコバイ	500~1000 倍	200~400 L/10 a	摘採 14 日前 まで		2 回 以内
	チャノキイロアザ ミウマ						

(2) 薬効

① りんご

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-1：エフィコン S L（ジンプロピリダズ 10.8 %乳剤）の薬効・薬害試験（りんご、アブラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
りんご	長野 H29	ユキヤナギアブラムシ	甚	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	青森 H30	ユキヤナギアブラムシ	中	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
りんご	岩手 H30	リンゴミドリアブラムシ	多	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	長野 H30	ユキヤナギアブラムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
りんご	長野 H30	ユキヤナギアブラムシ	多	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
りんご	山梨 H30	ユキヤナギアブラムシ	多→甚	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	山梨 H30	ユキヤナギアブラムシ	多→甚	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	青森 R1	ユキヤナギアブラムシ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	青森 R1	ユキヤナギアブラムシ	少	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
りんご	岩手 R1	リンゴミドリアブラムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	福島 R1	リンゴクビレアブラムシ	中→少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
りんご	福島 R1	リンゴヒメアブラムシ	中→少	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	山梨 R1	ユキヤナギアブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
りんご	山梨 R1	ユキヤナギアブラムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

② なし

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-2：エフィコン SL の薬効・薬害試験（なし、アブラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なし	千葉 R2	ナシアブラムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	茨城 R2	ユキヤナギアブラムシ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	山梨 R2	ユキヤナギアブラムシ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	山梨 R2	ユキヤナギアブラムシ	中→多 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	滋賀 R2	ユキヤナギアブラムシ ワタアブラムシ	中 中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	滋賀 R2	ユキヤナギアブラムシ ワタアブラムシ	中 中	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	佐賀 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	福岡 R2	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	千葉 R3	ナシアブラムシ	中	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-3：エフィコン SL の薬効・薬害試験（なし、カイガラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
なし	長野 H30	クワコカイ ガラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なし	長野 R1	クワコカイ ガラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

③ もも

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-4：エフィコン SL の薬効・薬害試験（もも、アブラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
もも	愛知 R3	モモコキアブラ ムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R3	モモコキアブラ ムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-5：エフィコン SL の薬効・薬害試験（もも、カイガラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
もも	山梨 H29	ウメシロカイガラ ムシ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 H30	ウメシロカイガラ ムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	長野 R1	ウメシロカイガラ ムシ	少～多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R1	ウメシロカイガラ ムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
もも	福島 R2	ウメシロカイガラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
もも	愛知 R2	アジロカイガラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
もも	山梨 R2	ウメシロカイガラムシ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
もも	福岡 R2	アジロカイガラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

④ おうとう

薬効・薬害試験の結果、オウトウショウジョウバエに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-6：エフィコン SL の薬効・薬害試験（おうとう、オウトウショウジョウバエ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
おうとう	山梨 H30	オウトウショウジョウバエ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
おうとう	山形 R1	オウトウショウジョウバエ	多 (放虫)	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
おうとう	山梨 R1	オウトウショウジョウバエ	多	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。

⑤ ぶどう

薬効・薬害試験の結果、チャノキイロアザミウマに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-7：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ぶどう、チャノキイロアザミウマ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ぶどう	山梨 H30	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 H30	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ぶどう	長野 R1	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 R1	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 R2	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ぶどう	山梨 R2	チャノキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	三重 R3	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
ぶどう	山梨 R3	チャノキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑥ キャベツ

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-8：エフィコン SL の薬効・薬害試験（キャベツ、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊)*	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 H29	モモアカアブラムシ	少→中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	山梨 H29	モモアカアブラムシ	中→少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	本剤処理 7 日後より葉の奇形症状が認められた。処理 14 日後には対照区及び無処理区と比較して生育遅延が認められ、この症状は処理 42 日後でも観察された。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊) *	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
									め、実用上問題があると考えられた。
キャベツ	岩手 R1	モモアカアブラムシ タビイコンアブラムシ	中 少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	群馬 R1	モモアカアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	三重 R1	モモアカアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮崎 R2	タビイコンアブラムシ ニセタビイコンアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少 少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

*：箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット（30×60 cm、使用土壌約 3～4 L）を示す。

表 1-9：エフィコン SL の薬効・薬害試験（キャベツ、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 H29	ダイコンアブラムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岡山 H29	ニセダイコンアブラムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岩手 H30	モモアカアブラムシ ダイコンアブラムシ	中 少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岩手 H30	モモアカアブラムシ ダイコンアブラムシ	中 少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	群馬 H30	ダイコンアブラムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	群馬 H30	ダイコンアブラムシ	中	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	奈良 H30	モモアカアブラムシ	多	1,000 0.011	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	奈良 H30	モモアカアブラムシ	多	2,000 0.005	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮城 R1	ダイコンアブラムシ	多	1,000 0.011	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	宮城 R1	ダイコンアブラムシ	多	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	岩手 R1	モモアカアブラムシ ダイコンアブラムシ	中 少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	群馬 R1	モモアカアブラムシ	中 → 少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 R1	モモアカアブラムシ	中 → 少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-10：エフィコン SL の薬効・薬害試験（キャベツ、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	岩手 R3	ネアザミウマ	多	1,000 0.011	定植 活着期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
キャベツ	神奈川 R3	ネアザミウマ	中	1,000 0.011	定植 活着期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑦ はくさい

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-11：エフィコン SL の薬効・薬害試験（はくさい、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊)*	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
はくさい	愛知 R1	ニセダ イコンア ブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
はくさい	和歌山 R1	ニセダ イコンア ブラムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
はくさい	宮崎 R1	ニセダ イコンア ブラムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
はくさい	茨城 R2	モモアカアブラムシ ニセダ イコンア ブラムシ	少 少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
はくさい	愛知 R2	モモアカアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
はくさい	千葉 R3	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
はくさい	茨城 R3	ニセダ イコンア ブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。

*：箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット（30×60 cm、使用土壌約 3～4 L）を示す。

表 1-12：エフィコン SL の薬効・薬害試験（はくさい、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
はくさい	茨城 H30	ニセダ イコンア ブラムシ	少	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
はくさい	宮崎 H29	ニセダ イコンア ブラムシ	多	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
はくさい	長野 H30	モモアカアブラ ムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
はくさい	長野 H30	モモアカアブラムシ	中	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	和歌山 H30	ニセタテイコンアブラムシ	多	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	和歌山 H30	ニセタテイコンアブラムシ	多	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R1	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	茨城 R1	モモアカアブラムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	長野 R1	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	結球期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
はくさい	長野 R1	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
はくさい	愛知 R1	ニセタテイコンアブラムシ	多	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	愛知 R1	ニセタテイコンアブラムシ	多	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	和歌山 R1	ニセタテイコンアブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	和歌山 R1	ニセタテイコンアブラムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑧ ブロッコリー

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-13：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ブロッコリー、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (L/箱又は L/冊)*	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	岩手 R2	モモアカアブラムシ ダイコンアブラムシ	少 少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ブロッコリー	茨城 R2	モモアカアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ブロッコリー	愛知 R2	モモアカアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ブロッコリー	宮崎 R2	ニセダイコンアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ブロッコリー	茨城 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ブロッコリー	香川 R3	ニセダイコンアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ブロッコリー	宮崎 R3	ニセダイコンアブラムシ モモアカアブラムシ	少 (放虫) 少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 当日	灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。

*：箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット（30×60 cm、使用土壌約 3～4 L）を示す。

表 1-14：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ブロッコリー、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	岩手 R2	モモアカアブラムシ ダイコンアブラムシ	少 少	1,000 0.011	薬展 開期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
ブロッコリー	愛知 R2	モモアカアブラムシ	中	1,000 0.011	薬展 開期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
ブロッコリー	愛知 R2	モモアカアブラムシ	中	2,000 0.005	薬展 開期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	香川 R2	モモアカアブラムシ	中	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	香川 R2	モモアカアブラムシ	中	2,000 0.005	薬展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	宮崎 R2	ニセダマコニアアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	宮崎 R2	ニセダマコニアアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	定植 活着期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	茨城 R3	ニセダマコニアアブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	愛知 R3	ニセダマコニアアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-15：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ブロッコリー、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ブロッコリー	岩手 H30	ネギアザミウマ	多	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	茨城 H30	ネギアザミウマ	少→ 中	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	愛知 H30	ネギアザミウマ	中	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	岩手 R1	ネギアザミウマ	中	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	群馬 R1	ネギアザミウマ	甚	1,000 0.011	薬展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	兵庫 R1	ネギアザミウマ	少→多	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ブロッコリー	香川 R1	ネギアザミウマ	多	1,000 0.011	葉展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

⑨ レタス類

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-16：エフィコン SL の薬効・薬害試験（レタス、アブラムシ類、灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量(L/箱 又は L/冊)*	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	長野 R1	チュールリップヒゲナガアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	愛知 R1	タイワンヒゲナガアブラムシ	中→少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	茨城 R1	タイワンヒゲナガアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	高知 R1	タイワンヒゲナガアブラムシ	中 (放虫)	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	長野 R2	チュールリップヒゲナガアブラムシ	中	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	愛知 R2	タイワンヒゲナガアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	茨城 R3	タイワンヒゲナガアブラムシ	少 (放虫)	250 0.043	0.5	定植 3 日前	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
レタス	長野 R3	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	少	250 0.043	0.5	定植当日	灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

*：箱はセル成型育苗トレイ、冊はペーパーポット（30×60 cm、使用土壌約 3～4 L）を示す。

表 1-17：エフィコン SL の薬効・薬害試験（レタス、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	茨城 H29	モモアブラムシ	中→少 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	高知 H29	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	中→少 (放虫)	2,000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	茨城 H30	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	茨城 H30	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	中	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	愛知 H30	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	愛知 H30	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	高知 H30	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	高知 H30	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	中→多 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	長野 R1	チュウリップヒ ゲナガアブラ ムシ	少	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	長野 R1	チュウリップヒ ゲナガアブラ ムシ	少	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	奈良 R1	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	奈良 R1	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。
レタス	愛知 R2	タイワンヒゲナ ガアブラムシ	中	1,000 0.011	外葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な 効果が認められた。	薬害は認め られなかった。

⑩ トマト及びミニトマト

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類及びトマトサビダニに対して無処理区と比べて効果が認められた。

ミニトマトのアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類及びトマトサビダニに対する効果については、トマトの試験で評価した。

表 1-18：エフィコン SL の薬効・薬害試験（トマト、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用液量 (mL/株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	福岡 R2	モモアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	鹿児島 R3	チュールリップヒゲナ ガアブラムシ	少→多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。

表 1-19：エフィコン SL の薬効・薬害試験（トマト、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	高知 H29	タバココナジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て十分な効果が認 められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 H29	タバココナジラミ	少→中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て効果が認められ た。	薬害は認められ なかった。
トマト	茨城 H30	オンシツコナジラミ	多→甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て効果が認められ た。	薬害は認められ なかった。
トマト	高知 H30	タバココナジラミ	中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て効果が認められ た。	薬害は認められ なかった。
トマト	宮崎 H30	タバココナジラミ	中→多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て十分な効果が認 められた。	薬害は認められ なかった。
トマト	神奈川 R1	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較し て十分な効果が認 められた。	薬害は認められ なかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	宮城 R1	オンシツコナジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-20：エフィコン SL の薬効・薬害試験（トマト、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	高知 H30	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 H30	モモアカアブラムシ	少	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	奈良 R1	チュールリップヒゲナ ガアブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	奈良 R1	チュールリップヒゲナ ガアブラムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R1	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R1	モモアカアブラムシ	少	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	福岡 R1	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	福岡 R1	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	奈良 R2	ワタアブラムシ	多→少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R2	モモアカアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-21：エフィコン SL の薬効・薬害試験結果概要（トマト、コナジラミ類、散布）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	静岡 H29	タバココナジラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 H29	タバココナジラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	宮崎 H29	タバコナジ ラミ	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮城 H30	オシツコナジ ラミ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	神奈川 H30	タバコナジ ラミ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	神奈川 R1	オシツコナジ ラミ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	静岡 R1	タバコナジ ラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 H30	タバコナジ ラミ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-22 エフィコン SL の薬効・薬害試験結果概要（トマト、アザミウマ類）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	神奈川 R2	ミカンキイロアザミウマ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	神奈川 R3	ミカンキイロアザミウマ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-23 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（トマト、トマトサビダニ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	大阪 R1	トマトサビダニ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	宮崎 R1	トマトサビダニ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	三重 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	大阪 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
トマト	高知 R2	トマトサビダニ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
トマト	徳島 R3	トマトサビダニ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑪ なす

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、コナジラミ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-24：エフィコン SL の薬効・薬害試験（なす、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 R2	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ ジャガイモヒゲナ ガアブラムシ	少→多 少 少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	岡山 R2	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	福岡 R2	モモアカアブラムシ	中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	千葉 R3	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	茨城 R3	モモアカアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R3	モモアカアブラムシ ワタアブラムシ	多 少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-25 エフィコン SL の薬効・薬害試験結果概要（なす、コナジラミ類、育苗ポット灌注）

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害

なす	滋賀 R2	オンシツコナジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較 して効果が認め られた。	薬害は認められ なかった。
なす	宮崎 R2	タバココナジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較 して効果が認め られた。	薬害は認められ なかった。

表 1-26：エフィコン SL の薬効・薬害試験（なす、アブラムシ類、散布）結果概要

作物 名	実施 場所 実施 年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生 量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
な す	奈良 R1	ワタアブラムシ	多→ 甚	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	新潟 R3	ワタアブラムシ	甚	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	新潟 R3	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	大阪 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	大阪 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	奈良 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	奈良 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	山梨 R3	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	奈良 R3	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。
な す	宮崎 R3	ワタアブラムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められ た。	薬害は認め られなかつ た。

表 1-27：エフィコン SL の薬効・薬害試験（なす、コナジラミ類、散布）結果概要

作物名		対象病虫害	試験条件	結果
-----	--	-------	------	----

	実施 場所 実施 年度	害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	山口 H29	タバコナシラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H29	タバコナシラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 H30	タバコナシラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	徳島 H30	タバコナシラミ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H30	タバコナシラミ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	奈良 R1	タバコナシラミ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	徳島 R1	タバコナシラミ	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。

表 1-28：エフィコン SL の薬効・薬害試験（なす、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
なす	茨城 H30	ミカンキイロアザミウマ	多→甚	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H30	ミカンキイロアザミウマ ネギアザミウマ	中→多 中→少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	茨城 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なす	滋賀 R1	ミカンキイロアザミウマ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	高知 H30	ミカンキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	福岡 R1	ミカンキイロアザミウマ	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
なす	宮崎 R1	ミカンキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

⑫ ピーマン

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-29：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ピーマン、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	高知 H29	モモアカイアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 H29	モモアカイアブラムシ	中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 H30	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	高知 H30	モモアカアブラムシ ワタアブラムシ	多→少 中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ピーマン	宮崎 H30	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少→中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ピーマン	岩手 R1	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	多 少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-30：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ピーマン、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	鹿児島 R2	タバココナジラミ	少→中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。
ピーマン	沖縄 R2	タバココナジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して 十分な効果が認めら れた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-31：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ピーマン、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	岩手 R2	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。
ピーマン	岩手 R2	ワタアブラムシ	中	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。
ピーマン	茨城 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。

ピーマン	茨城 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	ワタアブラムシ	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R2	ワタアブラムシ	多	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R2	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R2	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R3	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 R3	モモアカアブラムシ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-32：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ピーマン、コナジラミ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ピーマン	高知 H29	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 H30	タバココナジラミ	甚 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	鹿児島 H30	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	宮崎 H29	タバココナジラミ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	茨城 R1	タバココナジラミ	中→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	高知 R1	タバココナジラミ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	鹿児島 R1	タバココナジラミ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ピーマン	沖縄 R1	タバココナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑬ いちご

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-33：エフィコン SL の薬効・薬害試験（いちご、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
いちご	宮城 R2	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	栃木 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	茨城 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	静岡 R2	ワタアブラムシ	中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	奈良 R2	ワタアブラムシ	中→多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	滋賀 R2	ワタアブラムシ	甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	滋賀 R3	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-34：エフィコン SL の薬効・薬害試験（いちご、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
いちご	静岡 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	静岡 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	奈良 R2	ワタアブラムシ	多	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	香川 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
いちご	香川 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	2,000 0.005	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R2	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R2	ワタアブラムシ	中	2,000 0.005	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	長崎 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	長崎 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R3	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-35：エフィコン SL の薬効・薬害試験（いちご、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
いちご	山梨 H30	ミカンキイロアザミウマ	少 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	高知 H30	ヒラズハナアザミウマ	中	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
いちご	佐賀 H30	ヒラズハナアザミウマ	多	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
いちご	栃木 R1	ミカンキイロアザミウマ	多 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
いちご	滋賀 R1	ミカンキイロアザミウマ	少→多	1,000 0.011	開花期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
いちご	福岡 R1	ヒラズハナアザミウマ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
いちご	佐賀 R1	ヒラズハナアザミウマ	少 (放虫)	1,000 0.011	収穫期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑭ きゅうり

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類、コナジラミ類及びアザミウマ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-36：エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果
概要

作物名	実施 場所 実施 年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生 量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	岩手 H30	ワタアブラムシ	甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 H30	ワタアブラムシ	中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 H30	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 R1	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	山口 R1	ワタアブラムシ	少→ 甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R1	ワタアブラムシ	中→ 多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-37：エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果
概要

作物名	実施 場所 実施 年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	茨城 H29	オシツコナ ジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 H29	タバコナ ジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 H30	オシツコナ ジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	高知 H30	タバコナ ジラミ	中→多	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	宮崎 H30	タバコナ ジラミ	少→中	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	茨城 R1	オシツコナ ジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	山口 R1	タバコナ ジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果 が認められなかった。	薬害は認めら れなかった。
きゅうり	宮崎 R1	タバコナ ジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果 が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-38：エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	群馬 R2	ワタアブラ ムシ	多→甚 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められな かった。
きゅうり	茨城 R2	ワタアブラ ムシ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められな かった。
きゅうり	茨城 R2	ワタアブラ ムシ	中	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認められな かった。
きゅうり	山口 R2	ワタアブラ ムシ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認められな かった。
きゅうり	宮崎 R2	ワタアブラ ムシ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	処理 13 日後調査で 薬液の付着した葉 (本葉 1～3 枚目)で 葉縁が白化する軽 微な薬害が認めら れた。薬害はその 後の生育に影響は 無く、実用上の問 題は無いと思われ た。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	奈良 R3	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	奈良 R3	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	徳島 R3	ワタアブラムシ	多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	埼玉 R4	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	埼玉 R4	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-39：エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、コナジラミ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
きゅうり	宮城 R2	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R2	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R2	タバココナジラミ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R2	タバココナジラミ	多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	千葉 R3	オンシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
きゅうり	高知 R3	タバココナジラミ	中→多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-40：エフィコン SL の薬効・薬害試験（きゅうり、アザミウマ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
きゅうり	高知 H30	ミナミキイロアザミウマ ネギアザミウマ	中→多 多→中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 H30	ミナミキイロアザミウマ	中→多	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	茨城 R1	ネギアザミウマ ミナミキイロアザミウマ	少 少	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	大阪 R1	ネギアザミウマ	多→中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	滋賀 R1	ミナミキイロアザミウマ	中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	福岡 R1	ミナミキイロアザミウマ	多	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	宮崎 R1	ミナミキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
きゅうり	滋賀 R3	ミナミキイロアザミウマ	少	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

⑮ すいか

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-41：エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	茨城 R2	ワタアブラムシ	中→少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	山梨 R2	ワタアブラムシ	中→極少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	和歌山 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	滋賀 R2	ワタアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R2	ワタアブラムシ	甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	滋賀 R3	ワタアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R3	ワタアブラムシ	少→甚	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-42：エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	滋賀 R2	オンシツコナジラミ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R2	タバココナジラミ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-43：エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
すいか	鳥取 H29	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	高知 H29	ワタアブラムシ	中	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 H30	ワタアブラムシ	甚	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 H30	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	高知 H30	ワタアブラムシ	中→多	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	高知 H30	ワタアブラムシ	中→多	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	新潟 R1	ワタアブラムシ	甚	1,000 0.011	開花 着果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	新潟 R1	ワタアブラムシ	甚	2,000 0.005	開花 着果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	山梨 R1	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	山梨 R1	ワタアブラムシ	中	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 R1	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	鳥取 R1	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
すいか	宮崎 R2	ワタアブラムシ	多	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-44 エフィコン SL の薬効・薬害試験（すいか、コナジラミ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
すいか	滋賀 R2	オシツコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
すいか	宮崎 R2	タバコナジラミ	少	1,000 0.011	開花 着果期	散布	無処理区と比較して 効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

⑩ メロン

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類及びコナジラミ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-45 : エフィコン SL の薬効・薬害試験（メロン、アブラムシ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	茨城 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
メロン	静岡 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
メロン	高知 R2	ワタアブラムシ	少→中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
メロン	鹿児島 R2	ワタアブラムシ	少→多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
メロン	宮崎 R2	ワタアブラムシ	少 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して十分 な効果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
メロン	千葉 R3	ワタアブラムシ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
メロン	茨城 R3	ワタアブラムシ	少	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-46：エフィコン SL の薬効・薬害試験（メロン、コナジラミ類、育苗ポット灌注）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/ 株)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	滋賀 R2	オンシツコナジラミ	多 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R2	タバココナジラミ	中 (放虫)	500 0.022	50	定植 当日	育苗 ポット 灌注	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-47：エフィコン SL の薬効・薬害試験（メロン、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	千葉 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	千葉 R2	ワタアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R2	ワタアブラムシ	甚 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R2	ワタアブラムシ	中→甚	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R2	ワタアブラムシ	中→甚	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	熊本 R2	ワタアブラムシ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	千葉 R3	ワタアブラムシ	多	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	宮崎 R3	ワタアブラムシ	中	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-48：エフィコン SL の薬効・薬害試験（メロン、コナジラミ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
メロン	静岡 H29	タバコナジラミ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	高知 H29	タバコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 H30	タバコナジラミ	中 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	高知 H30	タバコナジラミ	中	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	静岡 R1	タバコナジラミ	少 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	鹿児島 R1	タバコナジラミ	多 (放虫)	1,000 0.011	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
メロン	熊本 R1	タバコナジラミ	少→多 (放虫)	1,000 0.011	開花・ 結果期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑰ てんさい

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-49：エフィコン SL の薬効・薬害試験（てんさい、アブラムシ類、灌漑）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (L/冊)*	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
てんさい	北海道 R1	モモアカアブラムシ	甚 (放虫)	100 0.108	1	定植 2 日前	灌漑	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 R2	モモアカアブラムシ	甚 (放虫)	100 0.108	1	定植 前日	灌漑	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 R3	モモアカアブラムシ	甚 (放虫)	100 0.108	1	定植 当日	灌漑	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
てんさい	千葉 R3	モモアカアブラムシ	少 (放虫)	100 0.108	1	定植 当日	灌漑	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

*：冊はペーパーポットを示す。

表 1-50：エフィコン SL の薬効・薬害試験（てんさい、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
てんさい	北海道 H29	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 H29	モモアカアブラムシ	甚→多 (放虫)	4,000 0.003	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 H30	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 H30	モモアカアブラムシ	多 (放虫)	4,000 0.003	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 R1	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
てんさい	北海道 R1	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	4,000 0.003	茎葉 展開期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

⑱ ばれいしょ

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-51：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ばれいしょ、アブラムシ類、植溝内土壌散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (L/10 a)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ばれいしょ	北海道 H29	ジャガイモヒゲナガアブラムシ モモアカアブラムシ	少 中	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 H30	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	極少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	効果の確認はできなかった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 H30	ジャガイモヒゲナガアブラムシ モモアカアブラムシ	中 少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R1	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	中 (放虫)	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	効果の確認はできなかった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R1	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件				結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (L/10 a)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ばれいしょ	長崎 R1	ワタアブラムシ	少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R2	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	多 (放虫)	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 R2	ジャガイモヒゲナガアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	長崎 R1	ワタアブラムシ モモアカアブラムシ	少 少	100 0.108	20	植付時	植溝内 土壌 散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-52：エフィコン SL の薬効・薬害試験（ばれいしょ、アブラムシ類、散布）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
ばれいしょ	北海道 H29	モモアカアブラムシ	中	2,000 0.005	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	北海道 H29	モモアカアブラムシ	中	4,000 0.003	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	茨城 H29	モモアカアブラムシ チュリップヒゲナガアブラムシ ワタアブラムシ	中 少 中	2,000 0.005	塊茎 形成期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいしょ	茨城 H29	モモアカアブラムシ チュリップヒゲナガアブラムシ ワタアブラムシ	中 少 中	4,000 0.003	塊茎 形成期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ばれいし よ	長崎 H29	ワタアブラムシ	多→甚	2,000 0.005	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	長崎 H29	ワタアブラムシ	多→甚	4,000 0.003	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	北海道 H30	ジャガイトヒ ゲナカアブラムシ モモアカアブラムシ	中 中	2,000 0.005	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	北海道 H30	ジャガイトヒ ゲナカアブラムシ モモアカアブラムシ	中 中	4,000 0.003	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	茨城 H30	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	茨城 H30	モモアカアブラムシ	中 (放虫)	4,000 0.003	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	長崎 H30	ワタアブラムシ	やや多 → やや少	2,000 0.005	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	長崎 H30	ワタアブラムシ	やや多 → やや少	4,000 0.003	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	北海道 R2	ジャガイトヒ ゲナカアブラムシ	少 (放虫)	2,000 0.005	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
ばれいし よ	北海道 R2	ジャガイトヒ ゲナカアブラムシ	少 (放虫)	4,000 0.003	栄養 成長期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑬ だいず

薬効・薬害試験の結果、アブラムシ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-53：エフィコン SL の薬効・薬害試験（だいず、アブラムシ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
だいず	北海道 H29	ジャガイモ モミゲナ ガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	北海道 H29	ジャガイモ モミゲナ ガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	兵庫 H29	ダイズア ブラムシ	中	2,000 0.005	子実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	兵庫 H29	ダイズア ブラムシ	中	4,000 0.003	子実 肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	北海道 H30	ジャガイモ モミゲナ ガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	北海道 H30	ジャガイモ モミゲナ ガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	岡山 H30	ダイズア ブラムシ ジャガイモ モミゲナ ガアブラムシ	少 少	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	高知 H30	マメアブラムシ	中 (放虫)	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	高知 H30	マメアブラムシ	中 (放虫)	4,000 0.003	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	北海道 R1	ジャガイモ モミゲナ ガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	効果の確認はできなかった。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
だいず	北海道 R2	ジャガイモ モミナ ガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	北海道 R2	ジャガイモ モミナ ガアブラムシ	虫数:少 わい化病:少	2,000 0.005	発芽期~栄養成長前期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	第1回散布7日後には初生葉の葉先が褐変する薬害が処理区全体に認められたが、その後生育には影響なく、実用上問題無いと考えられた。
だいず	宮崎 R2	ジャガイモ モミナ ガアブラムシ	少	2,000 0.005	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいず	宮崎 R2	ジャガイモ モミナ ガアブラムシ	少	4,000 0.003	開花期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

② 茶

薬効・薬害試験の結果、チャノミドリヒメヨコッバイ及びチャノキイロアザミウマに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-54：エフィコン SL の薬効・薬害試験（茶、チャノミドリヒメヨコッバイ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
茶	静岡 H29	チャノミドリ ヒメヨコッ バイ	虫数:少→中 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 H29	チャノミドリ ヒメヨコッ バイ	虫数:少→中 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	鹿児島 H29	チャノミドリ ヒメヨコッ バイ	被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
茶	静岡 H30	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:中→多 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	福岡 H30	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:多	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。
茶	鹿児島 H30	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:中～多 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	静岡 R1	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	滋賀 R1	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:甚 被害芽率:甚	1,000 0.011	三番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。
茶	鹿児島 R1	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:多 被害芽率:甚	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	静岡 R2	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:多→少 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。
茶	愛知 R2	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:中→多 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。
茶	三重 R2	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:少→中 被害芽率:甚	500 0.022	一番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。
茶	滋賀 R2	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して十 分な効果が認められ た。	薬害は認めら れなかった。
茶	福岡 R2	チャノミヅ リヒメヨコ バイ	虫数:少 被害芽率:甚	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効 果が認められた。	薬害は認めら れなかった。

表 1-55：エフィコン SL の薬効・薬害試験（茶、チャノキイロアザミウマ）結果概要

作物 名	実施 場所 実施 年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		害虫名	発生 量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
茶	静岡 H29	チャノキイロアザミ ウマ	中→ 少	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 H29	チャノキイロアザミ ウマ	中→ 少	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R1	チャノキイロアザミ ウマ	中→ 少	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R1	チャノキイロアザミ ウマ	少	1,000 0.011	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R1	チャノキイロアザミ ウマ	少	1,000 0.011	秋冬番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	静岡 R2	チャノキイロアザミ ウマ	中→ 少	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
茶	三重 R2	チャノキイロアザミ ウマ	少	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R2	チャノキイロアザミ ウマ	中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	愛知 R3	チャノキイロアザミ ウマ	少→ 中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
茶	滋賀 R3	チャノキイロアザミ ウマ	中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	福岡 R3	チャノキイロアザミ ウマ	少→ 中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
茶	熊本 R3	チャノキイロアザミ ウマ	中	500 0.022	二番茶 摘採期	散布	無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。

(3) 薬害

① 対象作物への薬害

表 1-1 から表 1-55 に示した薬効・薬害試験において、キャベツに灌注処理した場合に生育遅延が認められた。その他の作物については、実用上問題となる薬害は認められなかった。

エフィコン S L（ジンプロピリダズ 10.8 %乳剤）を用いて実施した薬害試験の結果概要を表 1-56 及び表 1-57 に示す。試験の結果、りんごの品種「秋映」、ぶどう、トマト、きゅうり及びなすに薬害が認められた。

エフィコン S L（ジンプロピリダズ 10.8 %乳剤）を用いて実施した茶の残臭試験の結果概要を表 1-58 に示す。残臭試験の結果、摘採 1 日前の使用において薬臭は認められなかった。

以上の結果から、野菜類に灌注処理する場合並びにりんご及びぶどうに対する薬害に関する注意事項が必要と判断した。

その他の申請作物に対する薬害については問題ないと判断した。

表 1-56：エフィコン SL の薬害試験結果概要（散布）

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理時期	使用 方法	
りんご (秋映) (ふじ) (シナゴールト)	長野 R4	500 1,000 2,000	0.022 0.011 0.005	生育期	散布	試験した 3 品種のうち、「秋映」のみで 2000 倍、1000 倍、500 倍(倍量)の希釈で葉に褐点症状が確認された。 「ふじ」、「シナゴールト」に対しては、1000 倍と 500 倍(倍量)で薬害症状は確認されなかった。
ぶどう	山梨 R3	1,000	0.011	生育期 (落花直後 小豆大期 大豆大期 袋かけ前)	散布	落花直後、小豆大期での散布では薬害、汚れ、果粉溶脱は認められなかった。 大豆大期の散布では薬害、汚れは認められなかったが、実用上問題にならない程度の果粉溶脱が認められた。 袋掛け前の散布では薬害、汚れは認められなかったが、実用上問題になる果粉溶脱が認められた。

表 1-57：エフィコン SL の薬害試験結果概要（育苗ポット灌注）

作物名	試験場所 実施年度	試験条件					結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/株)	処理 時期	使用 方法	
トマト	千葉 H30	250	0.043	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、処理 7 日後～14 日後に葉縁部の壊死、およびそれに伴う葉の変形が見られた。

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件					結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	使用 液量 (mL/株)	処理 時期	使用 方法	
トマト	千葉 H30	500	0.022	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、 処理 7 日後～14 日後に葉縁部の壊死、およびそ れに伴う葉の変形が見られた。
きゅうり	千葉 H30	250	0.043	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、 処理 7 日後～14 日後に葉縁部に若干の壊死、お よびそれに伴う葉の変形が見られた。
きゅうり	千葉 H30	500	0.022	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、 処理 7 日後～14 日後に葉縁部に若干の壊死、お よびそれに伴う葉の変形が見られた。
なす	千葉 H30	250	0.043	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、 処理 7 日後～14 日後に葉縁部の壊死がみとめら れた。250 倍区では葉縁部の壊死とそれに伴う 葉の中央部の壊死・変形が見られた。
なす	千葉 H30	500	0.022	50	育苗期	育苗ポット 灌注	本剤の処理後育苗ポットのまま静置したところ、 処理 7 日後～14 日後に葉縁部の壊死がみとめら れた。250 倍区では葉縁部の壊死とそれに伴う 葉の中央部の壊死・変形が見られた。

表 1-58：エフィコン SL の茶の残臭試験結果概要

作物名	試験 場所 実施 年度	試験条件				結果
		希釈 倍数 (倍)	処理 濃度 (kg ai/hL)	処理時期	使用 方法	
茶	福岡 R2	500	0.022	摘採 1, 3, 7, 14 日前	散布	いずれの時期も薬臭は認められなかつた。
	宮崎 R2	500	0.022	摘採 1, 3, 7, 14 日前	散布	いずれの時期も薬臭は認められなかつた。

② 対象作物以外の作物への薬害

表 1-1 から表 1-58 に示した薬効・薬害試験及び薬害試験において、9 科 20 作物に対して本剤を処理した結果、キャベツで生育不良、トマト、きゅうり及びなすで葉縁の壊死及び変形、りんごの品種「秋映」で葉に褐点症状、ぶどうで果粉溶脱が認められたが、その他の作物では実用上問題となる薬害は認められなかった。

キャベツ、トマト、きゅうり及びなすの薬害は苗に対する灌注処理により発生しており、本剤を希釈して散布する場合においては問題ないと判断した。

りんごの品種「秋映」に対する薬害については、使用上の注意事項で飛散しないよう記載されていることから、問題ないと判断した。

ぶどうの果粉溶脱については、果実に直接散布しない限り発生する可能性は低いと考えられることから、問題ないと判断した。

以上のことから適用作物の周辺で栽培される作物への薬害について問題ないと判断した。

